

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

自己評価報告書

平成30年3月31日現在

新宿鍼灸柔整歯科衛生専門学校

平成30年5月17日作成

1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p>学校教育法に基づき、はり師及びきゅう師を希望する者に対しては、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律に基づく専門知識及び技術を、柔道整復師を希望する者に対しては、柔道整復師法に基づく専門知識及び技術を、また、歯科衛生士を希望する者に対しては、歯科衛生士法に基づく専門知識及び技術を教授することにより、国民の健康の保持に寄与すると共に、自主的精神に充ちた心身と共に有能な臨床家として社会に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>	<p>教育理念と教育目的に則り以下に示す到達目標を定め、これを卒業認定・称号授与の方針（ディプロマポリシー）とする。</p> <p>【主体的・自立的に行動できる人間力を身につける】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性と高い倫理観をもって適切に判断し、責任ある行動をとることができる。 2. 探求的・創造的思考を身に付け、生涯自己学習に取り組むことの必要性を理解している。 3. 対象者と良好な関係を築き、相手の立場に立った医療サービスを提供できる。 4. 医療の現場で円滑にコミュニケーションがとれ、他医療職を理解し連携する能力を持つ。 <p>【医療専門職として必要な臨床力を身につける】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として必要な基礎医学・臨床医学の知識を幅広く修得している。 2. 医療専門職として求められる専門的知識や技能を有し、安全かつ適切に実践できる。 3. 知識を統合し、対象者の身体的・心理的・社会的な状態を適切に判断する基本的な問題解決能力を持つ。

最終更新日付	平成 29 年 6 月 22 日	記載責任者	永野 修
--------	------------------	-------	------

2 本年度の重点目標と達成計画

平成29年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>1. 国家試験合格率 100%</p> <p>2. 中途退学率 5%以内</p> <p>3. 就職率 100%</p> <p>4. 教員の教育力向上</p> <p>5. 学生募集の強化</p>	<p>1 について、医療人として必要な基礎医学・臨床医学の知識を幅広く修得させるために。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）を学科ごとに具体的にわかりやすく策定する。 ② 受験者一人一人の国家試験合格学力の習熟度を把握し、学科ごとの指導計画を策定し、習熟度別に学習計画を立て、きめ細かい指導を実施する。 <p>2 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1 年生に対する導入期の指導計画を策定し、望ましい生活習慣と学習習慣を身につけさせる。 ② 授業欠席数が多い学生を適宜指導する。 ③ 休退学者の原因分析・今後の対策を検討する。 <p>3 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 3 年間の就職活動支援計画を示し、学生自らのキャリアデザインへの意識を向上させる。 ② 企業説明会や各種就職講座を定期的で開催し就職を支援する。 <p>4 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 目標を定め、スキルアップするため自己評価シートを活用する。 ② 学生による授業評価を実施し内容の改善を図る。 ③ 教員の研究、学会での発表を学科ごとに行う。 <p>5 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高校訪問・ガイダンス・学校説明会を強化する。 ② 職員及び教員の広報スキルの向上を図る。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念、教育目的及び育成人材像については、学則及び新宿鍼灸柔整歯科衛生専門学校における専門学校教育実現のための方策として定め、教育理念と教育目的を実現するための到達目標を本校全体としての卒業認定・称号授与の方針（ディプロマポリシー）として定め、育成人材像を明確化した。</p> <p>「人間力」のある人材を育成するビジョンとして「人にやさしく、自分をつよく」の標語を定めている。</p> <p>変化する社会のニーズを踏まえた教育目標を将来構想をもって具体的に検討し、学科ごとの育成人材像を定めている。</p> <p>理念等を実現するための具体的な計画・方法として教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）を定め、変化する社会・業界の養成に対応するよう適宜見直ことができる体制としている。</p>	<p>学科ごとに定めた育成人材像を変化する社会・業界の養成に対応するよう見直すため、教育課程編成委員会で定期的に検討する。</p>	

最終更新日付	平成 30 年 5 月 9 日	記載責任者	永野 修
--------	-----------------	-------	------

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営は、毎年の事業計画（予算）を基に行われる。変化の激しい業界のニーズに合った人材を養成するためには、中期（3年～5年程度）の運営方針が重要である。</p> <p>事業計画は運営会議、理事会の決裁を受け、承認を得ている。</p> <p>理事会・評議員会は寄付行為に基づき適切に開催され、審議は、議事録に残されている。寄付行為の改正は、適正な手続きを経て為されている。学校運営に必要な事務及び教学組織は整備されている。</p> <p>運営会議は、定期的（月4回）に開かれ、ここで組織図、組織規定を策定し下部会議体へ伝え、各会議体と委員会は各部所の責任を明確にしている。各会議体は議事録を開催ごとに作成し、決定事項を執行している。</p> <p>事業計画内には、組織図、各会議体が示されている。</p> <p>運営組織は、目的、方針、目標と実行計画に基づいている。</p> <p>採用と人材育成は短期・中期の事業計画に沿って行っている。</p>	<p>「自己点検・自己評価」のPDCAサイクルによる確実な実施、「学校関係者評価委員会」による関係者評価に基づいた改善を実施する。</p>	

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念等に沿った教育課程の編成・実施方針は明確である。また、学科毎の教育レベルは、免許取得という目標が明確であり、その指導・支援体制は整っている。</p> <p>学校としてどのような能力を身につけた学生に卒業を認定し、称号を授与するのかという方針（ディプロマポリシー）を定め、その方針を達成するために必要な教育内容等を示した教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）を定めている。</p> <p>各学科の卒業認定の方針（ディプロマポリシー）では業界の動向を踏まえた到達目標を定め、その方針を達成するための教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）ではその内容をカリキュラムマップを用いわかりやすく示している。</p> <p>具体的な取り組みとして、シラバス（コマシラバス）、小テストの有効活用やアクティブラーニングの実施がある。</p> <p>自主的、自立的に行動できる「人間力」を身につけるため、キャリア教育の視点からカリキュラムを見直す必要がある。また、医療専門職として必要な臨床力を身につけるため、より充実した臨地実習先を確保が課題である。</p> <p>教育活動の有効性の判断として、授業評価アンケートを実施し、授業の改善に繋げている。</p> <p>中途退学の要因となる「学力不足」を改善するため、新入生に対する「導入期の指導計画」を策定しているが、さらに実効性のある方策の構築が課題である。</p>	<p>試験や小テストで学生個々の弱点を洗い出し、対策を講じる。</p> <p>自主的、自立的に行動できる「人間力」を身につけるため、キャリア教育の視点からカリキュラムを見直す。</p> <p>医療専門職として必要な臨床力を身につけるため、より充実した臨地実習先を確保する。</p> <p>「導入期の指導計画」は全教職員の共通認識のもと実効性の強化を図る。</p>	

最終更新日付	平成 30 年 5 月 9 日	記載責任者	永野 修
--------	-----------------	-------	------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職率 100%を目標にしている。就職セミナーは年 4 回実施した。就職データは適切に管理している。関連する業界の動向を把握する。</p> <p>鍼灸学科、柔整学科、歯科衛生学科ともに全員合格を目標にしている。平成 29 年度合格率は、はり師 91.6%、きゅう師 93.3%、柔道整復師 88.7%、歯科衛生士 100%であった。全員合格のため指導計画、実行、評価及び改善をさらに進める必要がある。</p> <p>卒業後のフォローアップとして、各就職先に訪問して現状の把握、確認を行い、必要に応じて相談等を実施する。積み重ねの資料を作成することが必要である。また、同窓会と連携を取りながら就職先の開拓が必要である。</p>	<p>3 学科ともにミスマッチのない就職先の首魁を行う</p> <p>関連する業界の動向を把握する。</p> <p>歯科衛生学科の就職活動を支援する。</p> <p>指導計画、実行、評価、改善を定期的に行う。</p> <p>3 年間の就職活動支援計画を示し、学生の就職に対する意識を高めると共に学生自ら行動する意識を高める。</p> <p>キャリアデザイン支援室が中心になり同窓会や各学科教員との協力体制を構築する。</p> <p>キャリアデザイン支援室や同窓会の HP を活用して情報を集める。</p> <p>同窓会の一本化、企画等多数行い信頼される学校運営に努める。</p>	

最終更新日付	平成 30 年 5 月 7 日	記載責任者	濱野 哲也
--------	-----------------	-------	-------

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>企業説明会は年 4 回開催した。複数院経営の企業参加は毎回参加可能であるが高技術の個人院の参加が困難であり今後の課題である。近年の傾向で、国家試験合格、資格取得後に就職活動を開始するという動きが良く見られる。新高卒学生の入学が多くなり、以前に比べ就職、職業の意識が低くなっている。</p> <p>中途退学の要因・傾向、退学者数及び指導経過については、把握し記録を保存している。</p> <p>最近の学生相談は学習面や生活面だけでなく、健康面での不安を訴える相談が増加しつつある。</p> <p>学生の企画により 2 回目の学園祭を開催し学生主体の学園祭の道筋が出来た。</p> <p>経済支援や健康管理については、整備されている。学校独自の学生寮を設置するのは、立地的に困難である。部活動は 13 団体となり、昨年より減少した。今後は、各クラブの遠征費用などの支援を検討しなければならない。</p> <p>新入生を入学前に事前に来校させ学習方法を指導すると共に友達作りをさせ、個々の大まかな性格などを把握する。入学時に保護者と新入生を集めオリエンテーションを行い連携を取っている。保護者との連絡は電話連絡が多い。成績不良の学生保護者への連絡は、密に行う。</p> <p>同窓会組織の活動は、学校施設を利用して活発化している。卒業研修やキャリアアップのサポートや再就職への支援を行っている。社会人学生に対しては、履修に対して出来るだけの軽減を行っている。</p>	<p>中途退学低減に向けた取り組みとして、学生の学力及び心理面の状況に応じた低学力対策及びメンタル面の指導については、カウンセラーの協力を得るなど学校をあげて取り組む必要がある。</p> <p>休退学など取り返しのつかない問題になる前に対応できる様な環境作りが急務である。</p> <p>授業欠席数が多い学生を適宜指導する。また、休退学者の原因分析・今後の対策を検討する。</p> <p>学生の災害傷害保険・賠償責任保険については、今年度見直しを行った。</p> <p>歯科衛生学科を含む同窓会の一本化を目指す。産学連携の再教育プログラムや、社会人学生への教育環境を整備する必要がある。</p>	

最終更新日付	平成 30 年 5 月 7 日	記載責任者	濱野 哲也
--------	-----------------	-------	-------

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・設備・教育用具等の整備は十分であり、日常点検等は適切であり、改修等も適切に行っている。</p> <p>柔道整復学科において、学内施設においてインターンシップを行っている。</p> <p>評価方法など文章化していない。</p> <p>防災マニュアルを作成し、防災に関する計画、災害時の具体的な行動を示している。</p> <p>建物の耐震化、備品の転倒防止は、適切である。</p> <p>防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は、法令に基づき適切に対応している。</p> <p>平成 29 年度は、教職員の避難訓練を実施した。新入生に対しては、毎年新入生オリエンテーションに時、避難経路の確認と非常出口の確認を行っている。</p> <p>事故対策マニュアルを作成し、校内での授業中の事故に対応している。</p> <p>防犯カメラを設置し、盗難防止に取り組んだ。</p>	<p>規定等の見直しを図る。</p> <p>全校対象の防災訓練の計画を立て実施する。</p>	

最終更新日付	平成 30 年 5 月 7 日	記載責任者	濱野 哲也
--------	-----------------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>高等学校への情報提供は、進学相談会に参加し、高等学校の進路担当へ個別に訪問して積極的に情報提供を行っている。学生募集に関しては、適切に行っており、学校案内やパンフレット・ホームページには特色を分かり易く標記している。また、学校説明会やオープンキャンパスを月4回以上行っている。しかし、参加人数が減少している。参加人数増加するための工夫が必要である。</p> <p>入学選考は、学則を基に諸規定で定めている。選考については、適切に行っている。</p> <p>合否判定は、書類および試験ならびに面談で行い、公平性を確保している。</p> <p>学科毎の合格・辞退に関するデータは、学生管理ソフトで適切に管理している。</p> <p>入学者の学力を把握し、入学後補習を実施している。応募数値が計画数値より下回った。応募数値を計画数値に近づけることが課題である。</p> <p>学生の能力及び経済力を考慮した学納金を算定している。</p> <p>徴収金額はすべて明示している。</p>	<p>高校訪問等情報提供に取り組む。</p> <p>特色ある教育活動等を分かりやすく紹介する教職員への研修を実施する。</p> <p>学校説明会、オープンキャンパスの企画・内容を検討する。</p> <p>来校者に対しての出願率を高める対策を検討する。</p> <p>応募者数が、計画数値となるよう教職員の募集活動に対する意識の向上に取り組む。</p>	

最終更新日付	平成 30 年 5 月 18 日	記載責任者	長尾 隆司
--------	------------------	-------	-------

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定している。</p> <p>応募者数等の数字の把握は毎年行っている。学校としての収支は支出超過であったが法人としての収支バランスはとれており、本校においては入学生確保に係る学生募集行動計画を策定し、コスト管理をしながらも新たな取り組みを実施し、前年度以上の入学生確保に注力する。</p> <p>私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施し、理事会等で報告している。</p> <p>更に監査法人による監査を年2回実施している。財務公開規程を整備し、公開が義務付けられている財務帳票、事業報告書を作成しホームページに公開している。</p>	<p>入学生の確保に伴う学納金の収入増及び人員配置の見直すことで、人件費比率の改善を行い、財務改善を実施する。</p> <p>収支バランスを取れるよう前年度以上の入学生確保に注力する。</p> <p>入学生確保のため学生募集計画を策定する。</p>	

最終更新日付	平成 30 年 5 月 18 日	記載責任者	長尾 隆司
--------	------------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令等を遵守し、適切に学校運営を行っている。また、必要な諸規定を整備しているが、セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止の対応マニュアルや、コンプライアンスに関する相談窓口を設置した。</p> <p>個人情報保護に関する取り扱い規程や、情報機器使用についての規程を整備している。</p> <p>本校開設のホームページは、運用業者に委託しているので、情報漏えい対策は講じている。</p> <p>学生・教職員に個人情報管理に関する啓発教育が、計画的に行う必要がある。</p> <p>学則には記載してあるが、規程等は整備していない。</p> <p>組織体制は整備し、毎年度定期的に学校全体で取り組んでいる。評価結果を報告書にまとめホームページで公表している。学校関係者評価については、整備しており組織的に実施している。委員の選任には関連業界から適切に選任している。学校関係者評価報告書を取りまとめ、ホームページに掲載している。</p> <p>学校の概要・教育内容を、学校案内・ホームページ等で公開している。</p>	<p>セクシュアルハラスメント等ハラスメントに関する相談窓口を設置した。教職員及び学生に対し広く告知する必要がある。</p> <p>個人情報管理の組織的、計画的体制の構築を行う。</p> <p>PDCA サイクルを軌道に乗せ、学校改善へ取り組む</p>	

最終更新日付	平成 30 年 5 月 7 日	記載責任者	濱野 哲也
--------	-----------------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生の卒業研修のため、施術所及び図書室を解放している。</p> <p>学校の施設を開放して、業界のセミナーや研修会等を行っている。</p> <p>国際交流には、取組んでいない。</p> <p>留学生を受け入れたため日本語学校を訪問する。</p> <p>学生のボランティア活動を積極的に奨励していない。学生が個人的に行っている。実態把握を行う。</p>	<p>歯科衛生学科の留学生を受け入れたために日本語学校を訪問する。</p> <p>町内会と連携を図りボランティア活動の機会や情報を提供する。</p>	

最終更新日付	平成 30 年 5 月 7 日	記載責任者	濱野 哲也
--------	-----------------	-------	-------

4 平成29年度重点目標達成についての自己評価

平成29年度重点目標	達成状況	今後の課題
1. 国家試験合格率 100%	1 国家試験合格率 はり師 92% きゅう師 93% 柔道整復師 88% 歯科衛生士 100%	1. 国家試験対策の推進 ・学科ごとの国家試験受験に向けた指導体制策定し学習計画を立て指導を実施し、3 学科とも国家試験合格率 100%を目指す。
2. 中途退学率 5%以内	2 中途退学率 鍼灸学科 9.26% 柔整柔道整復学科 5.14% 歯科衛生学科 7.33% 全体 7.03%	2. 中途退学率を減少させる ・授業欠席数が多い学生を適宜指導する。 ・休退学者の原因分析・今後の対策を検討する。
3. 就職率 100%	3 就職率 鍼灸学科 100% 柔道整復学科 100% 歯科衛生学科 100% 全体 100%	3. 就職率 ・学生自らのキャリアデザインへの意識を向上させる。 ・企業説明会や各種就職講座を定期的に開催し就職を支援する。
4. 教員の教育力向上	4 ・目標を定め、スキルアップするため自己評価シートを作成した。 ・学生による授業評価を実施し内容の改善を図った。 ・講師会議を開催し、情報の共有化を図った。	4. 教員の教育力向上 ・目標を定め、スキルアップするための自己評価シートを有効活用する。 ・教員の研究・学会での発表を学科ごとに行う。
5. 学生募集の強化	5 ・広報担当者を中心に、選抜された教員が高校訪問・ガイダンスを行った。 ・学校説明会の参加目標を達成することができなかった。	5. 学生募集の強化 ・学校説明会の目標人数を達成する為に、高校訪問・ガイダンス・学校説明会を強化する。 ・職員及び教員の広報スキルの向上を図る。